

多心の涼気をお覚える頃とお成りな  
した。

由病氣でございましてさうで、由  
礼申上しました。

その後のいいでございまして。由  
何致す。

さて、早速おから。新流十一月号に

「軽機後の生涯と文学」といふやうな  
下

にて、何ら由室の稿をお取存  
する。

都合いらいでございませうか。若し、  
幸し。

中野出版よりおらうを、十枚位  
お返しに。

新潮社用箋

来る九月末日迄は、頂事れば幸甚  
の上  
に存じます。老ほとりあ之承  
都合か何  
方と申すのみ申す。

九月十日、

梅崎 勲

新潮社用箋

細田源吉様

付史

梅崎 勲

東京市牛込區矢來町

新潮社編輯部

電話牛込

一八八八八  
二〇〇〇〇  
四九八七六  
番番番番番

昭和 年 九月十八日